



運動会本番。「はいっ！Tちゃん」



「ほら来たよ、手伸ばして、少し動いて」



「バドンは手を伸ばして走りながらもらおう。」



「Tちゃん、8番目頑張っ！」「うん。」

CASE 20
5歳児



(幼児の実態)

5歳児にとって幼稚園最後の運動会。プログラム中の精選等の対策で実施が
決まり、子どもたちは張り切って競技に取り組まれました。中でも、年長児が
4チームで競うリレーは、バトンをつないで走る楽しさを味わったり、自分た
ちで作戦を考えてチームの仲間意識を強めたりする競技となりました。
みくい聞 ち4決
どなりい てみでち5
りい「ど作り歳
子と「りムに児
とい私、戦を競と
けん、2自チで子
ムのん番。分は、に
のけん。と早10の競競
作戦とM児。「走ること得意な人は後で走ろう！」と、これが速
なり、走順は自分が選択することとなりました。

「みどりチーム、
解散したくないよねー！」

協力園
別府大学
附属幼稚園

みんなの走る順番が決まった後もS児とT児がまだ決まりません。
二人は、自分のことを「たぶん得意」と言います。「じゃ、どっちにする？」「ジャンケンにする？」「走ってみた方がわかるんじゃない？」
と、話し合いで実際に走ってみることに。先にゴールしたのはT児。
「じゃ、Tちゃんが8番、Sくんが4番。」とみんなの順番が決ま
ります。「Tちゃん、がんばってね！」と、すぐにT児を応援する子も
いました。

走順の作戦を考えたりみどりチームですが、なかなか1番になれませ
ん。「1番で差をつけられたら追いつけない。」と、M児の考えからス
ターターを決め直したり、ミニボードに名前を貼って走る順番が分か
るようにしたりと、勝てる方法を考えていました。

運動会練習の合間や給食後の遊びの時間、リーダーを中心に自分た
ちで集まってリレーを繰り返すみどりチーム。1回でも勝たせてあげ
たいと担任は、「先生と秘密の練習しない？」と呼びかけ、秘密の練
習場所へ移動します。「リレー、よく練習してるね。勝ちたいよね。一
つの方法だけやってみる？」と切り出すと、「うん。秘密の方法やっ
てみる。」元気がいい子どもたち。そこで、担任が、バトンは、手
を伸ばすと受け取りやすいこと、少し助走をするとうつからないう
をやって見せると、子どもたちはバトンパスの工夫に気付いたよう
です。

そして、2人組を作った子どもたちは、バトンをもらったり渡した
りしてホールの中を走りまわります。自ずと手を伸ばしたり、助走を
したりしてバトンの受け渡しを楽しみます。「Oちゃん！」とバトン
を渡す友達の名前を呼んで渡そうとしている子どももいました。

「先生、外でやってみよう。」と実際のトラック上で試したい子ども
の声に一緒にグラウンドへ移動します。ピブスを着用し走順どおりリ
レーが始まります。走り終えた子や順番を待つ子は、「ほら来たよ。手出
して」「少し走って」と、次に走る友達のそばで声をかけます。秘密の
練習をすぐに活かし、声をかけ合い協力する姿が見られました。秘密の
グラウンドでは、他のチームも練習を始めて4チームが揃いました。
担任が「最後の競争してみる？」と尋ねると、2チームは「する、す
る。」と積極的。みどりチームを含めた残りの2チームは、「大事な秘
密があるんだ。本番まで見せたくないから今日は競争しない。」と、敢
えて勝負せず、本番に挑みたい思いを語ります。みどりチームは、手
に入れた走順やバトンパスの秘密の作戦を他のチームに見せたくな
かったのでしょうか。中でもリーダーの子は、「しない、しない。」と連発
していました。担任は子どもたちの思いを尊重して、「じゃ、勝負は本
番の運動会でしよう！」と、練習最後の日を締めました。

**健康な心と体・協同性
環境構成のポイント**

- 練習や走順などの作戦を子どもたちに任せ、自発的な行動を尊重するリレーのねらいの設定。
- 共通の目的をもち、実現のために一緒に練習したり、作戦を考えたりする友達の存在。
- チームの状況を把握して作戦の援助や、努力を認めたり励ましたりする担任の存在。
- いつでも練習できるような環境構成（バトン、笛、ピブス、グラウンドの白線、走順を書くミニボード）

**事例から見られる10の育ち
協同性**

「リレーで勝たたい。」と、自分たちを前に、練習時間を自分たちで見つけて走ったり、バトンパスを楽しんだりして体を十分動かしている。走ることで、チームの走力アップ、リレーに勝つことに繋がることを見通し、さらに期待もして練習を重ねてきたと思われ

また、他チームと競争する楽しさや悔しさを体験することから、勝ちにつながるように自ら体を動かして練習する心と体の育ちの姿が見られる。

**事例から見られる10の育ち
健康な心と身体**

運動会のリレーを前に、練習時間を自分たちで見つけて走ったり、バトンパスを楽しんだりして体を十分動かしている。走ることで、チームの走力アップ、リレーに勝つことに繋がることを見通し、さらに期待もして練習を重ねてきたと思われ

**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
「10の姿」**

思考力の芽生え
言葉による伝え合い
協同性
健康な心と体
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。